

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	角館のお祭り実行委員会補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	中村和彦
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	テンミリオン計画の推進				29
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	「角館まつりのやま行事」に関わる全ての人、観光客等。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	国指定重要無形民俗文化財「角館まつりのやま行事」の伝統を尊重し、諸行事の円滑な運営を図るとともに、観光宣伝誘客に努めることを目的とする。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	大置山の設置（4ヵ所）、ミニ曳山展示（秋田ふるさと村、JR角館駅構内）、佐竹北家上覧の実施、観光用やまぶっつけの実施、臨時駐車場運営、臨時トイレの設置、交通警備員の配置、ゴミ処理、特設舞台でのイベント実施など。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	観光客数	目標	人	250,000	300,000	300,000	
			実績	人	285,000	307,000	252,000	
			達成度	%	114.0%	102.3%	84.0%	
	成果指標	観光客数対前年比	目標	%	100.0	120.0	100.0	
			実績	%	141.1	107.7	82.1	
			達成度	%	141.1%	89.8%	82.1%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				9,000	9,000	9,000	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	3,963	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				11,356	11,421	12,963	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				11,356	11,421	12,963
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		40	37	51
市民1人当たりのコスト(円)		—		356	363	418		

【事務事業の今までの成果】

350年以上の伝統を誇る角館のお祭りは、地元に着定しており、子供からお年寄りまで楽しみにしている行事であり、時代が変遷しても、変わりになく続く伝統行事である。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	他の自治体などから、出演依頼等受けており、全国的にも人気のある伝統行事である。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	可憐な舞い、勇壮な山ぶっつけは、伝統の中で培ってきたものであり、見応えがあるが、近年、時間規制、交通規制等に対する要望、苦情がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	時間規制、交通規制等の見直し。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

国指定重要無形民俗文化財であるので、お祭り自体は、大きく変わる事は無いが、時間規制、交通規制、観光客等への配慮等は、関係機関と連絡を密にし、よりよい伝統のあるお祭りにしていきたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	補助金を支出していることに加えて、実行委員会の経理を含めた事務の多くを観光課が担っている実態があることから、実行委員会の他の構成員との適正な役割分担を図る必要があります。これはイベント関係の事業費に共通の課題であり、抜本的な見直しが必要と考えます。諸行事の円滑な運営を図りつつ伝統を継承し、引き続き地域の活性化に寄与できる事業として継続すべきと考えます。

一次評価診断図

